

## 7 ナシの密植・2本主枝栽培による収益性向上

### ねらいと成果

近年、「二十世紀」梨産地では樹の老木化が進み、産地の活力維持のためには改植が急務である。しかしながら、生産者の高齢化や改植に伴う一時的減収などから実際にはあまり進んでいない。そこで、今回は人工交配が不要な「おさ二十世紀」を用い、せん定が容易で、早期成園化が可能である密植・2本主枝栽培の収益性について検討した。

その結果、密植・2本主枝栽培での累積収益は植栽5年目で黒字となり、植栽12年目には慣行栽培の約3.9倍(約1075万円/10a)と高収益が得られることが明らかとなった。

### 内容

#### 1 栽培概要および収量の推移

「おさ二十世紀」を供試し、栽植間隔および主枝本数は密植栽培が1.5m×4.5m、2本主枝(図1)、



図1 密植・2本主枝の栽培状況  
(主枝に直接側枝を配置し樹の構造を単純化)

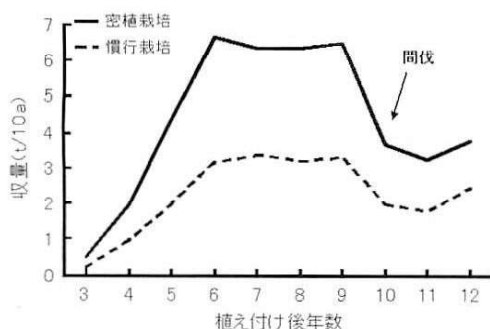


図2 収量の推移

慣行栽培が4.5m×4.5m、3本主枝とした。植え付け10年目の春に間伐を行い、栽植間隔を密植栽培で1.5m×9.0m、慣行栽培で4.5m×9.0mとした。収量は栽植本数の多い密植栽培が慣行栽培に比べ約2倍の多収となり、間伐後でも密植栽培は慣行栽培の約1.5倍の収量となった(図2)。

#### 2 収益性の試算

上記のような収量の推移から年次毎の収益試算(単純収支計算)をした。その結果、密植栽培での累積収益額は植栽5年目には黒字となり、さらに植栽12年目に慣行栽培の約3.9倍と、著しく高収益となった(図3)。

### 今後の方針

植栽当時には育成されていなかった自家結実性の黒斑病抵抗性品種である「おさゴールド」について密植・2本主枝栽培への適応性を検討する予定である。

松浦克彦(北部農技・農業部)

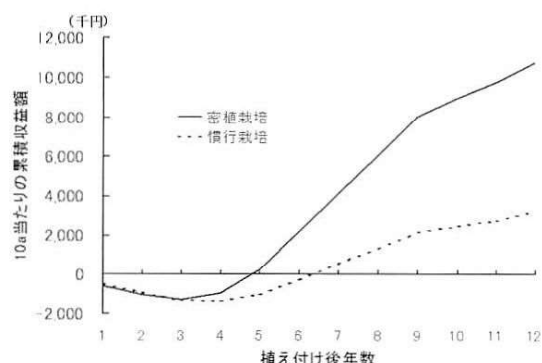


図3 累積収益額の推移

注) 試算の前提条件

- ・単価
  - 取収量の45%を市場出荷 300円/kg
  - 〃 55%を沿道直売 650円/kg
- ・経営費: 517,497円(密植栽培)  
413,967円(慣行栽培)
- ・固定経費: 387,166円(いずれの区とも)  
経営費については収量に応じて変動  
固定経費は収量に関係なく一定  
(平成13年度版 兵庫県地域農業経営指導ハンドブックを一部改変)